

Learning from the Pioneer
Overview of Health Care Interpreting in the U.S.A
「アメリカから学ぶ医療通訳」

本日の予定

演者挨拶	18:30 – 18:35 (5分)
今日の内容の説明	18:35 – 18:40 (5分)
1. 医療通訳 4 つの不足	18:40 – 18:50 (10分)
2. アメリカ医療通訳の歴史	18:50 – 19:05 (15分)
3. NCIHC による Standards of Practice	19:05 – 19:20 (15分)
4. アメリカの医療通訳認定制度	19:20 – 19:35 (15分)
5. 認定制度の前段階としての取り組み	19:35 – 19:45 (10分)
6. 医療通訳のこれから	19:45 – 19:55 (10分)
質疑応答	19:55 – 20:00 (5分)

演者プロフィール

◆ 押味貴之(おしみ たかゆき)

- 医師(日本医師会認定産業医 / 日本医師会認定健康スポーツ医 / 日本旅行医学会認定医)
- 医療通訳者 / 医療翻訳者
- 日本英語医療通訳協会理事 / 編集委員会委員長
- 日本医学英語教育学会会員 / 医学英語検定試験準備委員
- 米国 Cross Cultural Health Care Program 公認医療通訳トレーナー

現在旭川市の医療法人慶友会吉田病院にて産業医として企業健診に従事する傍ら、**医療英語**、**医療通訳**、**外国人医療**をキーワードに執筆・養成・啓蒙活動に携わる。

昨年度、司法通訳研究者らと共に「**日本英語医療通訳協会 J.E.**」を設立。海外の医療通訳を中心に調査・研究活動を進め、ボランティア医療通訳者の養成に携わる。

日本英語医療通訳協会(J.E.)

<http://www.medical-english.net/>

連載記事

キーワード:医療英語

・ 「心が伝わる 実践! Medical いんぐりっしゅ」

「ベストナース」(看護専門誌)にて連載中

看護の現場で実践できる英会話フレーズを紹介しています。

・ 「Dr. Taka のすぐに使えて役に立つ Medical いんぐりっしゅ」

「Oops!」(カナダ/バンクーバーの日本語情報誌)にて連載中

日常で使う身体に関する英語表現から専門用語に至るまで、幅広く紹介するコラム。

(以下のウェブサイトで最新号とバックナンバーを読むことができます。)

<http://www.oopsweb.com/>

キーワード:外国人医療

・ 「Dr. Oshimi's Healthy Lifestyle」

「Xene」(札幌の多言語情報誌)にて連載中

道内在住の外国人の方を対象とした医療情報を紹介するコラム。英語

<http://www.xenemag.net/>

・ 「Living Healthy in Asahikawa」

「Asahikawa Info」(旭川市国際交流委員会発行の情報誌)にて連載中

旭川在住の外国人の方を対象とした健康に関するコラム。英語

http://www.city.asahikawa.hokkaido.jp/files/kokusaikouryu/ashkwinfo/healthy/healthy_current.htm

1. 医療通訳 4 つの不足

◆ 医療通訳の発展に必要な4つの要素

- 認知
- システム
- 人材
- スキル

医療通訳発展のためには「認知」を充実させることが最も重要

◆ 4つの要素の不足

- 認知の不足: 「医療通訳」が知られていない
- システムの不足: 「医療通訳」を提供するシステムやお金が無い
- 人材の不足: 「医療通訳」を出来る人がいない / 医療通訳をサポートする人(コーディネーター等)がいない
- スキルの不足: 「医療通訳」のスキルやトレーニングが確立していない

これら4つの不足が悪循環している これら4つをバランス良く充実させる必要がある

◆ 4つの要素:日米比較

	日本	アメリカ
<u>認知</u>	日本語を話せない人口が少ない:約 60 万人 医療通訳の必要性が知られていない	英語を話せない人口が多い:約 1000 万人 医療通訳の必要性がある程度知られている
<u>システム</u>	医療通訳に関する法律がない ボランティアが主体	医療通訳に関する法律がある プロが主体
<u>人材</u>	バイリンガルが少ない 医療通訳を出来る人が少ない	バイリンガルが多い 医療通訳を出来る人が多い
<u>スキル</u>	役割、倫理、マニュアル、トレーニング等の議論が不十分 スキルが不十分 日本独自で発展させていくのか？	役割、倫理、マニュアル、トレーニング等の議論が活発 スキルが充実 この部分は模倣することが出来る！

◆ アメリカにおける医療通訳に関する法規則

- Civil Rights Act of 1964 Title 6 (1964)「公民権法第 6 編」:これが基本!

“No person in the United States shall, on the ground of race, color, or national origin, be excluded from participation in, be denied the benefits of, or be subjected to discrimination under any program or activity receiving Federal financial assistance.”

「米国に居住する者は連邦から補助金を得ているプログラムにおいて、人種、肌の色、出生地を理由に参加を差別されない」

- Executive Order 13166 (2000)「大統領令第 13166 号」:Title 6 を受けて発令

“Improving Access to Services for Persons with Limited English Proficiency”

The order required all federal agencies both to provide guidance to recipients of their funds on how to comply with Title VI and to produce a plan on how to provide language access to their own services.

これによって全ての連邦政府機関は、その補助金の受給施設(医療施設も含まれる)に公民権法第 6 編の遵守を指示し、そのサービスへのアクセスの際に言葉の壁を取り除くようなガイドラインを提供することが求められた。

- Strategic Plan to Improve Access to HHS (Health and Human Services) Programs and Activities by Limited English Proficient (LEP) Persons by DHS (Department of Human Services) (2000)

(The Language Access Strategic Plan)

大統領令第 13166 号を受けて DHS(保健社会福祉省)が提供したガイドライン

連邦政府から資金援助を受けている医療機関は無料で医療通訳を提供する義務がある

しかしこの The Language Access Strategic Plan には罰則規定がないため、強制力が弱く、アメリカでも医療通訳を提供している病院の数は多くない。

医療通訳に関する法規則への抵抗

- ブッシュ政権発足後の保守勢力 (2000)
- American Medical Association「アメリカ医師会」(2002)

「公民権法第 6 編」と Office for the Management of the Budget「行政管理予算局」が計上した大統領令施行費用の「少なさ」が抵抗勢力を押さえている

2. アメリカ医療通訳の歴史

◆ 1970年代:「必要に迫られる」

- 各地で外国出生人口が急増する
- 移民の多い地域で、移民を対象にした医療が単独で行われる
- 「medical interpreting」という言葉が使われ始める

◆ 1980年代:「試行錯誤」

- 各地で独自にトレーニングが行われるようになる
- 「医療通訳モデル」の不在
- ボランティアが主体

現在の日本と似た状況

◆ 1990年代前半:「Key Players の登場」

- 各地で外国出生人口が再び急増
- 1991年:ワシントン州にて医療通訳認定制度が始まる
- 1992年:Massachusetts Medical Interpreters Association (MMIA) 設立
- 1992年:Cross Cultural Health Care Program (CCHCP) 設立
- 1994年:National Working Group 誕生

CCHCP が医療通訳者会議を主催。全米各地、カナダから 28 名の医療通訳関係者が集まる。会議の継続を決定し、National Working Group が誕生する。

◆ 1990年代後半:「活発な情報交換」

- 1995年:MMIA が「Medical Interpreting Standards of Practice」を発行
- 1996年:California Healthcare Interpreting Association (CHIA) 設立
- 1998年:National Council for Interpreting in Health Care (NCIHC) 設立

National Working Group が正式な団体となる

◆ 2000年~:「基盤整備」

- 2000年:マサチューセッツ州で「救急治療室通訳者法」が制定され、緊急治療を行う病院では通訳コーディネーターの設置、通訳サービスの告知、通訳サービスの提供、医療通訳者のトレーニングが義務付けられる
- 2001年:オレゴン州で「オレゴン改訂州法 409 編 615 項から 625 項」が制定され、医療通訳の定義や認定制度、及びこれらを統括する “Oregon Council on Health Care Interpreting” 「オレゴン医療通訳評議会」等に関して細かい規定が設けられる。
- 2004年:NCIHC が「National Code of Ethics for Interpreters in Health Care」を発行
- 2005年:NCIHC が「National Standards of Practice for Interpreters in Health Care」を発行

3. NCIHC による National Standards of Practice

「医療通訳者がどのように行動したら良いかを示すマニュアル」

◆ **2005年9月にNCIHCがMMIA及びCHIAと協働して発行**

◆ **ベースとなったもの**

- MMIA の「Medical Interpreting Standards of Practice」
- CHIA の「California Standards for Healthcare Interpreter: Ethical Principles, Protocols, and Guidance on Roles & Intervention」
- 7つの都市の医療通訳者グループ(ヒューストン、シカゴ、ミネアポリス、ボストン、サクラメント、シップロック、オークランド)を対象とした調査
- NCIHC の「The Interpreter’s World Tour」:世界 25ヶ国 11言語、145の書類を用いて世界の通訳倫理・マニュアルを調査したもの

◆ **作成手順**

- 上記内容をベースに原案を作成
- 全米から 632名の通訳者、その他 141名からフィードバックを得て訂正
- 最終案は各項目において、回答者から 90%以上の同意を得る

◆ **このマニュアルの目的**

- トレーニングの参考にする
- 雇用の参考にする
- 評価の参考にする
- 認定の参考にする

◆ **倫理規定との違い**

倫理規定: Code of Ethics	マニュアル: Standards of Practice
原理を示す	具体的な行動を示す
“What should I do?”	“How do I do it?”

◆ 内容

- 9 個の大項目と 32 個の小項目
- 大項目にはその行動の「目的: Objective」が書かれている
- 大項目にはそれに関連する倫理規定が添えられている
- 各大項目はいくつかの小項目に分かれる
- 小項目には具体例が添えられている

Sample

Accuracy (大項目)

Objective (目的) : To enable other parties to know precisely what each speaker has said.

Related ethical principles (関連する倫理規定) :

“Interpreters strive to render the message accurately, conveying the content and spirit of the original message, taking into consideration the cultural context.”

(小項目)

The interpreter renders all messages accurately and completely, without adding, omitting, or substituting.

For example, an interpreter repeats all that is said, even it seems redundant, irrelevant, or rude. (具体例)

◆ NCIHC の戦略

1. 倫理規定 (Code of Ethics) の作成 (終了)
2. マニュアル (Standards of Practice) の作成 (終了)
3. トレーニング (Standards for Health Care Interpreter Training) の作成
4. 認定制度 (National Certification Process) の制定

NCIHC は認定を最終段階と考えている

4. アメリカの医療通訳認定制度

認定の目的: 「質の高い医療通訳者の確保」

2006年2月15日現在、ワシントン州のみに医療通訳認定制度がある

オレゴン州でも医療通訳認定制度に向けた取り組みが行われている

2001年に“Oregon Revised Statutes 409.615 to 625”「オレゴン改訂州法409編615項から625項」が作成され、医療通訳の定義や認定制度、及びこれらを統括する“Oregon Council on Health Care Interpreting”「オレゴン医療通訳評議会」等に関して細かい規定が設けられている。

現在このオレゴン改訂州法に基づき、オレゴン医療通訳評議会が医療通訳の認定を実際に行うための“Oregon Administrative Rules Chapter 333 Division 002”「オレゴン州行政規則 333 編 2 項」の最終案を作成している。

◆ ワシントン州とオレゴン州の認定制度の違い

	ワシントン州	オレゴン州
認定は義務か?	義務	義務ではない
受験資格	<ul style="list-style-type: none"> ● 18歳以上 	<ul style="list-style-type: none"> ● 18歳以上 ● 60時間以上の医療通訳トレーニング ● 20時間以上の医療通訳経験 ● 福祉省のオリエンテーションを受けて、プロとしての行動規範に署名をする必要
試験内容	<ul style="list-style-type: none"> ● 筆記試験 ● 口述試験 (sight translation / 逐次通訳)	<ul style="list-style-type: none"> ● 筆記試験 ● 口述試験
更新	<ul style="list-style-type: none"> ● 書類の提出 	<ul style="list-style-type: none"> ● 書類の提出 ● 12時間以上の教育 ● 25時間以上の経験 ● 行動規範への再署名
認定言語	8言語(スペイン語、ベトナム語、ロシア語、カンボジア語、ラオス語、韓国語、北京語、広東語)	6言語(スペイン語、ベトナム語、ロシア語、韓国語、北京語、広東語)

どちらのモデルが日本にふさわしいか、今後の動向に注目したい

5. 認定制度の前段階としての取り組み

◆ 認定制度の問題点

認定試験に関する問題

- 何を試験するのか？
- どのように試験するのか？
- 合格基準の設定をどのように定めるのか？
- どの言語を対象にするのか？
- 費用をどこから調達するのか？
- 誰が作るのか？

認定に関する問題

- 認定を受けない者に医療通訳を禁じるのか？
- 認定医療通訳者が調達出来ない場合はどうするのか？
- 稀少言語で通訳者そのものが確保出来ない場合、認定制度に意味はあるのか？
- 既存の医療通訳者が働けなくなってしまうのか？

認定制度導入には慎重な議論が必要

認定の目的: **「質の高い医療通訳者の確保」**

認定制度を設ける以外に、この目的を達成することは出来ないか？

“Interpreter Skills Summary”

by CHIA (California Healthcare Interpreting Association)

医療通訳のスキル、経験等を多角的に評価するシステム

- ◆ 医療通訳者が規定事項を記入して CHIA に提出する
- ◆ CHIA が提携する医療機関がこの規定事項を基準にして、必要な医療通訳者を選ぶ
- ◆ 規定事項の記入、閲覧は CHIA のウェブサイトを通じて行う
- ◆ 記入事項
 - 連絡先
 - 可能な勤務形態(常勤、非常勤、電話通訳、翻訳等)
 - 学歴
 - 語学力(自己申告の他にテストのスコア等も含む)
 - 通訳スキル(自己申告の他にテストのスコア等も含む)
 - 医療通訳トレーニング(トレーニング提供先のサイトとリンクし、トレーニングの内容も同時にチェック出来る)
 - 医療通訳の経験(診療科、電話通訳、ビデオ通訳等、詳細な項目で尋ねる)
- 等

このようなシステムが整ってから「認定制度」を始めれば、

「認定医療通訳者」が見つからない場合でも必要な医療通訳を確保しやすくなる。

6. 医療通訳のこれから

◆ スキルの充実

- 医療通訳にはどのような役割が求められるのか？
- 医療通訳にはどのような行動基準が求められるのか？
- 医療通訳にはどのようなスキルが求められるのか？
- 医療通訳を育成するにはどのようなプログラムが求められるのか？

こういった「スキル」を充実させるためにはアメリカの「スキル」を参考にすれば良いのではないかな？

- “National Code of Ethics for Interpreters in Health Care”
- “National Standards of Practice for Interpreters in Health Care”

◆ アメリカの医療通訳養成プログラム

“Bridging the Gap”

The Cross Cultural Health Care Program (CCHCP)

<http://www.xculture.org>

- 40 時間
- 基本的な医療通訳のスキル(役割、倫理、セッションマネジメント等)
- 医療の基礎知識(医療制度、医療従事者の文化 / 考え方、解剖、生理、医療手技等)
- 異文化理解やコミュニケーションスキル等
- 豊富なディスカッションやロールプレイ等を通して学ぶ

全米各地にトレーナーを養成し、1995 年以來、18 州、2000 人以上をトレーニングしてきた実績を持つ、全米で最も著名なプログラム

時間が40時間と短いこともあり、通訳技術や医療用語の研修には十分な時間を費やせず、高度な語学力、通訳力を有することが参加の前提条件となっている

“Healthcare Interpreting Training Program”

Portland Community College Institute for Health Professionals

<http://www.pcc.edu/staff/index.cfm/724,4979,30,html>

- 107 時間
- 「医療通訳概論」(5 時間)
- 「医療用語」(30 時間)
- 「解剖生理学概論」(15 時間)
- 「医療通訳各論」(10 時間)
- 「オンライン教材を用いた医療知識の習得」(17 時間)
- 「実習」(30 時間、計 4 日間)
- 筆記試験、口述試験の両方で 80%以上取らなければ不合格

通訳技術、医療用語の研修にも力を入れており、本格的なプロの医療通訳者養成という面では非常に充実したプログラム

107 時間(約6ヶ月)という参加条件は働いている通訳者には厳しく、また試験の合格基準も厳しいため、「誰もが気楽に受けられる」というものでない

◆ 日本における4つの要素の不足

- 認知の不足:「医療通訳」が知られていない
- システムの不足:「医療通訳」を提供するシステムやお金が無い
- 人材の不足:「医療通訳」を出来る人がいない / 医療通訳をサポートする人(コーディネーター等)がいない
- スキルの不足:「医療通訳」のスキルやトレーニングが確立していない

これら4つの不足が悪循環している これら4つをバランス良く充実させる必要がある

◆ 英語を介した4つの不足の充実

この「4つの不足」を充実させていくためには 英語医療通訳が最も近道ではないか？

● スキルの充実

英語は医療の世界での「共通語」であるので、医療に関するコンテンツ(教材、研修機会等)が他言語よりも豊富であり、医療通訳養成のための教材の開発、発展が容易である。

● システムの充実

英語は「国際言語」であるので、患者の母国語の医療通訳が不可能な場合では「切り札」となりうる。このため英語医療通訳者は他言語の医療通訳者に比べて代替可能な状況が多い。北海道に限って言えば、欧米出身者の登録者数が比較的多く、オーストラリア等、英語圏からの観光客も増加している背景がある。また海外での医療機関(日本人が患者になる場合)では英語の医療通訳が主体になる。海外の医療機関では日本と違い英語を話せる医師が多く、たとえイタリアなど英語圏以外であっても英語が医療通訳の言語となることが多い。このため英語医療通訳には「海外での医療通訳」としての職業選択がある。

● 人材の充実

英語は日本国内では他言語に比べてプロ通訳者が多い。また通訳になりうる「語学上級者」の数も多く、高度な語学力が必要とされる「医療通訳候補者」が豊富である。

● 認知の充実

英語は学習者が多いため、「医療英会話」「英語医療通訳講習会」等への受講者が多く、他言語よりも医療通訳の認知に貢献できる。

このように英語医療通訳は英語学習者が多いため「認知」されやすく、職業として成り立って「システム」としても発展しやすい環境にあり、また「人材」や「スキル」において豊富である。

アメリカのような養成プログラムを日本でも出来ないか？

日本では「真のバイリンガル」が少ない

日本では「医療通訳」のトレーニングと同時に「医療英語」のトレーニングが必要

そこで…

◆ 'Let's Enjoy! Medical English!' '医療英会話集中セミナー'

札幌市 / 旭川市で開催中の「医療英会話 / 医療通訳講習会」

時間: 2時間 × 10回 or 4時間 × 5回 計 20時間のプログラム

講師: 押味 貴之、エリック・はじめ・ジューゴ(旭川医科大学非常勤講師)

内容: 診療の場面での英語表現、一般的な症状に関する英語表現

代表的疾患に関する英語表現、医療通訳の技術、医療の基礎知識等を

ロールプレイやゲーム、クイズも取り入れて、参加者が楽しんで学べるように提供する

対象: ボランティア登録者(英語)・日常会話以上(英語)の能力を有する者

(例: 目安として英検準1級以上・TOEIC730点以上程度、英語実務経験者)

◆ **認知の充実**

- 一般の人の認知: 医療通訳、外国人医療について考えてもらう
- 医療関係者の認知: 医療通訳の使い方、異言語・異文化診療について学んでもらう
- 行政の認知: 外国人居住者、外国人観光客の医療問題を知ってもらう
- 医療通訳者の認知: 医療通訳者に正しい医療通訳のやり方を学んでもらう
- 医療通訳者のネットワーク

「医療通訳セミナー・医療通訳を考える全国会議 2006」

テーマ 「ことばと医療の問題を考える」

目的

在住外国人の生活上の問題のうち、最も困難なもの1つである医療とことばの問題について、国内の各地域で、少しずつではありますが、取組が進められています。

しかし、多言語医療サービスの質、持続可能性の面で大きな課題を抱えています。また、地域によっては、一部の実践者や医療従事者が孤軍奮闘しています。

そこで、こうした課題を解決するため、国内外の医療通訳先進事例をもとに、全国各地域の多様な関係者が課題を議論し、今後の方向について考えるとともに、全国的なネットワークを構築し、全ての人々が暮らしやすい地域社会の実現を目指します。

日時・場所

2006年1月28日(土) 10時30分～19時(交流会含む)

かながわ労働プラザ(JR石川町徒歩7分、関内徒歩10分)

<http://www.pref.kanagawa.jp/osirase/rosei/fukusi/004.htm>

National Conference on Health Care Interpreting

The continually increasing international population in Japan is resulting in language and cultural gaps that have created expanding needs for interpreting services in health care. Currently, no national standards, training, or certification for health care interpreting exists in Japan. Interpreters all over Japan - most of them volunteers - are struggling with little financial support.

On January 28, MIC Kanagawa, a leading group in the field of health care interpreting in Japan, held its inaugural national conference in Yokohama. Over the course of the day, approximately 200 people from all over Japan gathered at the Labor Plaza in Yokohama for the "National Conference on Health Care Interpreting."

In this month's issue, I'll tell you about the conference, and current movements in the field of health care interpreting.

A little Background

During the past several decades, due to the international population influx into Japan, the number of people with limited Japanese speaking ability is growing. Language and cultural differences between these groups and Japanese-speaking institutions was causing great concern in some sectors about the quality of service they were receiving. This has led to innovative programs in several areas of the country that provide interpreting services to those clients. These initial efforts were led by pioneering groups who are developing their programs in such places as Yokohama and Kyoto. Save for sporadic contact, these groups were, however, largely working alone on a local level.

There has been a growing desire among providers of health care interpreting services to establish closer ties with others in the field with the goal of establishing a national dialogue around issues of training, certification, and financial systems. *MIC Kanagawa (Multilanguage Information Center Kanagawa)* is an NPO that has been providing and training health care interpreters at participating hospitals in Kanagawa Prefecture, to help patients who do not speak Japanese. They managed to secure a small grant to fund a working conference to address these concerns on January 28.

Conference Goals

This one-day conference was designed to meet several goals:

- To clarify the issues involved in improving interpreting services in health care settings
- To share experiences with and approaches to interpreting and the training of interpreters
- To introduce international well-developed systems, training programs, and certification
- To outline an agenda for further discussion and research
- To establish a nationwide network to continue the dialogue

As well, there were 12 resource persons in attendance who represented health care interpreters, program planners, trainers, and health care providers. These are experts who have all had experience in the field of health care interpreting.

Conference Main Topics

The plenary session offered an opportunity for participants to get a quick overview of health care interpreting services in and out of Japan. The panelists presented various pioneering activities centered around the three elements of health care interpreting which are:

- Cooperation with health care providers
- Training and certification for health care interpreters
- Management of health care interpreting services

Based on the three main topics, the participants were divided into three workshops in the afternoon and discussed the issues. Post-conference survey comments, provided by the participants, indicate that many people found the workshops to be thought-provoking and fun. While there may have been respectful disagreements, the sharing of ideas and discussion was beneficial to all.

Moving on to the next stage...

In the end, there was a consensus among the participants about one thing: the need to continue the dialogue in a formal way and to continue to work together to further the cause. The group has dubbed itself the "Japan Medical Interpreting Network," and has tentatively planned a follow-up meeting for next year.

In Hokkaido, more and more tourists are visiting, but a safety net for their health care

services is not well established. Now is the time for us to start training good health care interpreters and organizing a system for high quality services in Hokkaido.

As the first step, I've started training volunteer interpreters in Sapporo and Asahikawa. In both lessons, we have as many as 30 students, some of whom are interested in becoming professionals. For those interested in the field, finding resources and contacts isn't easy. Wouldn't it be useful if there were a convenient way to access materials to support health care interpreting?

In fact, a new association was launched last year. The *Japan Association for Health Care Interpreting in Japanese and English (J.E.)* has been established to provide various materials in the field of health care interpreting. The objectives of *J.E.* include the following:

- Research health care interpreting systems and training courses in other countries with the intention of improving services in Japan
- Provide various materials to help support the field of health care interpreting in Japanese and in English
- Develop models to improve and set standards for health care interpreting
- Improve and provide training opportunities for interpreters in health care settings
- Provide awareness in training programs for health care providers
- Provide leadership in the management of effective health care interpreting services
- Maintain a center for cultural health care interpreting to make educational materials available

We are currently researching well-developed training courses in other countries, and we are offering a variety of information regarding training tools and programs for interpreters in Japan on our website (<http://www.medical-english.net>).

With continued effort, cooperation, and teamwork, the health care interpreting field is growing and developing into an essential well-respected profession. I hope that lots of you out there get interested in the field and check out our website.

Dr.Oshimi's Healthy Lifestyle

Xene, February 2006

◆ その他の国内の医療通訳養成プログラム

「財団法人自治体国際化協会 CLAIR 専門通訳ボランティア研修プログラム」

「医療通訳ボランティア研修プログラム」

<http://www.clair.or.jp/j/culture/program.html>

「短期集中コース 6 ユニットプログラム」

「標準コース 12 ユニットプログラム」

「徹底コース 18 ユニットプログラム」

の3コースからなる。

吹田市国際交流協会コミュニティ通訳士養成講座

主催: 吹田市国際交流協会 <http://www.kaigisho.com/sifa/>

共催: 吹田市 / 千里金蘭大学

協力: 日本英語医療通訳協会 (水野真木子会長 / 押味貴之理事)

「コミュニティ通訳士」とは?

「コミュニティ通訳士」= 「医療通訳者」+ 「行政通訳者」

講座の目的

吹田市国際交流協会にボランティア登録できる、質の高い「コミュニティ通訳士」を養成すること

認定

基準を満たした者を吹田市市長が認定する

2005 年度 コミュニティ通訳士 (医療部門)

2006 年度 コミュニティ通訳士 (医療部門 ・行政部門)

受講資格および認定試験受験資格

以下の項目を全て満たす者に限られる

- 吹田市及び近隣市に居住する者
- 吹田市国際交流協会にボランティア登録することが可能な者
- 英語通訳者は、TOEIC スコア 730 点以上、英検準 1 級または同等以上の者
- 英語以外の言語の通訳者は日常会話ができる者

この他、吹田市国際交流協会が必要と認めた者

募集人数

- 認定試験対象者: 20 名
- オブザーバー (認定試験の対象にならない者): 20 名

言語

半数: 英語

残りの半数: 中国・ハングル・スペイン・モンゴル・タイ・ロシア・マレーシア語

内容

基本講座(2日間)

- コミュニティ通訳一般論
- 通訳の技法と倫理・異文化と通訳
- 学校通訳について

専門講座(8日間)

- 医療通訳総論
- 薬学
- 外科
- 内科
- 精神科
- 小児科
- 整形外科
- 皮膚科

認定試験

- 講座内容に関するペーパーテスト(所要時間 1 時間 15 分:100 点満点)
- 講座中のロールプレイでの成績(3 段階評価)
- 作文(800 字まで。選考委員による 3 段階評価)

合格基準に関しては現在検討中

認定後について

- 吹田市国際交流協会にボランティア登録後、協会から吹田市の医療機関に派遣
- 通訳料金、支払い方法などについては検討中
- 認定後、技術向上を目的とする研修会、講座を開講する。
- 倫理規定を作成し、違反者にはその認定を取り消すこともある。

◆ システムの充実

必要としている人に医療通訳を届けるためのシステム作り

医療通訳者の収入源

- 無償？ 大いに問題あり
- 健康保険？ 厚生労働大臣が「通訳の料金は混合診療に含めない」と明言
- 税金？ 現在の財政難では困難
- 助成金？ 永続は困難
- 病院側の負担？ 病院の評価基準に組み込めれば見込みあり
- 民間の健康保険？ 一部の富裕患者のみ可

「患者さんのことを真剣に考えるなら、医療通訳者が自分一人だけで頑張っ

てはいけない」
「患者さんのことを真剣に考えるなら、医療通訳をボランティアに頼ってはいけない」

◆ 人材の充実

- 言語能力の高い人材確保
- プロ医療通訳者の育成
- 学部・学科の設立
- そして医療専門職へ

「患者さんのことを真剣に考えるなら、医療通訳は医療専門職にするべきである」

長い時間、ご静聴頂きありがとうございました。

押味貴之

医療通訳関連情報

◆ **医療英語に関する教材**

医療英会話

- 「**医師のための診療英会話: English for Doctors**」
著: マリア・ジョルフィ 日本版監修: J. パトリック・バロン
メジカルビュー社 6300 円 (CD5 枚付)
- 「**Lifesaver -Basic English for Medical Situations:
話せる! 役立つ! 看護英語**」
著: 井上真紀 / 佐藤利哉
マクミラン ランゲージハウス 2100 円 (CD1 枚付)
- 「**CD で学ぶ 外国人患者が来ても困らない 外来診療のための英会話**」
著: Norma E. Wyse / 小林ひろみ
メジカルビュー社 6300 円 (CD2 枚付)
- 「**New 看護のための英語・英会話**」
著: 川井麻美子 / 川井マリー
メディカ出版 3360 円 (CD1 枚付)
- 「**ナースのための 病院で使う英会話**」
監修: 飯田恭子
学習研究社 1995 円 (ミニ CD 付)
- 「**ちょっと一言 MediTalk 医療現場で役立つ英会話**」
著: 高階経和 / 宮崎悦子 英文監修: テレンス ジェイムズ オブライエン
インターメディカ 2625 円 (CD3 枚付)

医療用語

- 「これだけは知っておきたい 医学英語の基本用語と表現」
編著: 藤枝宏壽 / 玉巻欣子 / Randolph Mann
メジカルビュー社 2100 円
- 「医学英単語ワークブック」
著: レナルド・ノロ
医学書院 1995 円
- 「Medical Terminology Specialties」
著: REGINA M. MASTERS/BARBARA A. GYLYS
F.A. Davis 11,820 円 (CD-ROM2 枚付)
- 「Medical Terminology: A Short Course」
著: Davi-Ellen Chabner
W B Saunders Co 3417円

医学英語

- 「講義録 医学英語 1: 語彙の充実と読解力の向上」
担当編集委員: 清水雅子
メジカルビュー社 2625 円
- 「講義録 医学英語 2: 科学英語への扉」
担当編集委員: Nell L. Kennedy / 菱田治子
メジカルビュー社 2625 円
- 「講義録 医学英語 3:」
担当編集委員: J. Patrick Barron
メジカルビュー社 2625 円 近日発売

◆ 医療通訳に関する教材

- 「Bridging the Gap Interpreter Handbook」
Cross Cultural Health Care Program \$50.00
<http://www.xculture.org/resource/order/detail.cfm?PID=21&list=21%2C11%2C39%2C40%2C38%2C20%2C9%2C19%2C2>
- 「The Art of Medical Interpretation」
「Introduction to The Art of Medical Interpretation Manual」
Cross Cultural Communication Systems, Inc \$55.00

http://www.cccsorg.com/training/tools_manuals.html

- 「ことばと医療のベストプラクティス:医療通訳先進事例調査報告書」

編著:西村明夫

MIC かながわ 1500 円

◆ 医療通訳関連のウェブサイト

- MIC かながわ

医療通訳に関しては日本で最も先進的な取り組みを行っている団体です。

<http://hw001.gate01.com/mickanagawa/index.html>

- 専門通訳ボランティア研修プログラム

自治体国際化協会が提供する医療通訳プログラムに関するサイトです。

<http://www.clair.or.jp/j/culture/program.html>

- National Council for Interpreting in Health Care (NCIHC)

「全米医療通訳評議会」のサイトです。医療通訳に関する様々な論文や医療通訳マニュアルなどもダウンロード出来ます。

<http://www.ncihc.org/>

- Cross Cultural Health Care Program

全米で最も著名な医療通訳プログラム「Bridging the Gap」を提供している NGO のサイトです。

<http://www.xculture.org/>

- Cross Cultural Communication Systems, Inc (CCCS)

「Bridging the Gap」と似た「The Art of Medical Interpretation」等、医療通訳プログラムを提供している会社です。テキストはオンラインで購入することが出来ます。

<http://www.cccsorg.com/>

- Massachusetts Medical Interpreters Association (MMIA)

全米で最も古く、そして最も大きな医療通訳協会です。

<http://www.mmia.org/>

- California Healthcare Interpreting Association (CHIA)

MMIA と並んで全米で著名な医療通訳協会です。

<http://www.chia.ws/pages/index.php>

- 日本英語医療通訳協会 (J.E.)

英語医療通訳に関する情報だけでなく、医療英語も学べるサイトです。

<http://www.medical-english.net/>

- 日本医学英語教育学会 (JASMEE)

「医学英語教育」に取り組む学会です。会員の約半分は英語に長けた医師で、残りの半分は医大で英語を教える教員や医学英語の教育に携わる人たちです。

2008年3月にはこの学会で「医学英語検定」を始めます。

<http://www.medicalview.co.jp/JASMEE/index.shtml>

◆ **医療提供者用の医療通訳関連情報**

- **Addressing Language Access Issues in Your Practice:**

A Toolkit for Your Physicians and Their Staff Members

<http://www.calendow.org/reference/publications/pdf/cultural/CAFP%20Language%20Access%20Toolkit.pdf>

- **Best Practice Recommendations for Hospital-Based Interpreter Services**

<http://www.mass.gov/dph/bhqm/2bestpra.pdf>

◆ **アメリカの医療通訳トレーニングプログラムの紹介**

- **Interpreter Training Programs**

Hablamos Juntos

http://hablamosjuntos.org/pdf_files/Interpreter.Training.Profile.pdf

References

- 1) California Healthcare Interpreting Association.
<http://www.chia.ws/> (accessed at February 13, 2006)
- 2) Massachusetts Medical Interpreters Association.
<http://www.MMI A.org/> (accessed at February 13, 2006)
- 3) MIC かながわ.
<http://www.geocities.co.jp/SweetHome-Ivory/3748/> (accessed at January 13, 2006)
- 4) National Council on Interpreting in Health Care.
<http://www.ncihc.org/> (accessed at February 13, 2006)
- 5) Portland Community College Institute for Health Professionals: Healthcare Interpreting Training Program
<http://www.pcc.edu/staff/pdf/724/BrochureforFall2005111final.pdf>
(accessed at January 15, 2006)
- 6) Karin Ruschke, Shiva Bidar-Sielaff, and Maria-Paz Avery, NCIHC STC Committee. *NCIHC National Standards of Practice for Medical Interpreters*. MMI A 9th Annual National Conference on Medical Interpreting: Re-Visiting the Role of the Medical Interpreter; 2005 Oct 28-29; Boston, the United States of America.
- 7) Cynthia E. Roat, MPH, Shoreline, WA. *CHIA's Healthcare Interpreter Skills Summary: Halfway to Certification*. MMI A 9th Annual National Conference on Medical Interpreting: Re-Visiting the Role of the Medical Interpreter; 2005 Oct 28-29; Boston, the United States of America.
- 8) 押味貴之 (2006). *オレゴン州の医療通訳: 「義務」ではない認定制度に向けた取り組み. ことばと医療のベストプラクティス*. MIC かながわ

9) 自治体国際化協会ニューヨーク事務所 (2005). *米国における医療通訳について*. 自治体国際化協会ニューヨーク事務所

10) 西村明夫 (2003). *ことばと医療*. MIC かながわ